



English-Japanese

ニック先生の英会話 VOL. 18

First conversation

Kanako : Hello! My name is Kanako.
Tim : Hello, nice to meet you. My name is Tim.
Kanako : Where are you from?
Tim : I'm from Alaska.
Kanako : Really? I really want to go to Alaska.
Tim : Oh? I am glad to hear that. I love Alaska very much. Please come to Alaska if you can.
Kanako : I will Thank you!
Tim : Where are you from?
Kanako : I'm from Japan.
Tim : Really?? I have always wanted to go to Japan. I am very interested in Japan.
Kanako : Why do you like Japan so much?
Tim : I like the culture of Japan. Also, I think Japan is very unique. I also like Japanese food very much!
Kanako : I am so glad to hear it! Thank you!
Tim : Yah. Hey, your English is very good.
Kanako : Oh no, not really. But thank you.
Tim : Well, I have to go. It was nice meeting you. Maybe we can talk later.
Kanako : Yah, ok. Bye.



初めの会話

(和訳例)

カナコ：こんにちは！私の名前は、カナコです。
ティム：こんにちは、ティムです。
 よろしくお願ひします。
カナコ：どこから来ましたか？
ティム：私は、アラスカから来ました。
カナコ：本当ですか？私はアラスカに行きたいです。
ティム：それは嬉しいです。私もアラスカが大好きですよ。ぜひ、アラスカに来てください。
カナコ：うん！ありがとう！
ティム：カナコは、どこから来ましたか？
カナコ：日本から来ました。
ティム：本当に？私もずっと日本に行きたいと思っていますよ。日本に興味がありますよ。
カナコ：どうして日本がそんなに好きですか？
ティム：日本の文化がとても好きです。それと、日本はとてもユニークな国だと思います。そして、日本の料理も大好きです！
カナコ：それはよかったです。ありがとう！
ティム：そうね。カナコの英語は上手ですね。
カナコ：いや、そんなことないですよ。
 でも、ありがとう。
ティム：じゃあ、私は行かなくてははいけません。お会いできてよかったですよ。今度話しましょうね。
カナコ：うん、またね。

わたしにどっての
日本一
連載 12

むじやきに、楽しく

健康のために

おじゃめの会 増田みち子さん（73歳）

DATE

滝川（今城）。熊本おじゃめの会副会長、おじゃめの会御船支部長。おじゃめを健康づくりに向けた普及活動に努める。

「おじゃめ」との出会いから11年。現在、おじゃめの会御船支部では10人で活動中です。こうして活動ができるのも、熱いボランティア精神で望んでいる素晴らしい仲間恵まれているからです。

「おじゃめ」とは、熊本の方言で「お手玉」の意味。日本伝統文化であるお手玉の伝承遊びに、新しい工夫を取り入れた「健康おじゃめ」の普及活動を行っています。

「おじゃめ」は、医学的にも、脳の活性化に役立つとされ、独特のリズム感には、昔ながらの懐かしさがあります。そして何より、子どもから高齢者まで、誰でも簡単に楽しめる「おじゃめ」を健康や交流へとつながるような日本一を目指しています。

御船支部では、保育園や小学校、中学校の総合学習、祖父母会の交流、各施設でのイベントと、年間50回を超えるふれあい活動を行っています。昨年末には、上益城人権フェスタに参加して、おじゃめ作りや演舞の披露など、新たな活動の場も広がっています。

これから、御船支部では大きな目標が2つあります。



おじゃめの活動を多方面で展開する御船支部では会員を大募集中と話す増田支部長（前列中央）

平成22年に、熊本健康おじゃめ大会をはじめ、平成23年には、全国ねりんピックが御船町で開催予定です。

県内全域、そして全国へ「おじゃめ」の素晴らしさと魅力を発信できるように、大会を全面支援できればと考えています。精一杯頑張りますので、多くのご支援とご協力をお願いします。

熊本のバルビゾン御船町



4月の展示は、県立御船中学校3回卒業の井手宣通が、4年生の時に描いた油絵の自画像です。画面右下に1928年のサインがありますので16歳の作品です。第1回卒業の本田隆の水彩画の作品を昨年4月に紹介いたしましたが、富田至誠が図画教員として数年後の生徒の表現力の高さに驚きます。

生徒が蓄えている「力」を信じて背中を押し続けた富田の教育への熱い思いが痛いほど伝わってきます。人がその内面に蓄えている可能性を長い時間をかけて育てて行けば、結果は必ず芽吹くものだと井手少年の16歳の仕事から感じました。

（くまもとミフネ美術工芸倶楽部

藤本 輝美）

Book

おすすめ 今月の本

つみきのいえ

平田 研也 著
加藤久仁生 絵

世界中が感動した海に建つ不思議な家に住むおじいさんののはなし。最高のアニメが、その監督と脚本家の手でやさしい絵本になりました。



ブルー・ビーとピコの勇気

葉山 祥鼎 著
ハヤマテイジ 絵

森の仲間、鳥のピコが最近飛ぶ自信をなくしたと知りブルー・ビーたちは心配しています。しかし、突然のカミナリと大雨でブルー・ビーたちは大ピンチ。みんなが助けを呼ぶ声を聞いたピコは…。



はる 初春の客

平岩 弓枝 著

一ヶ月東吾が「かわせみ」に来なかったことで、るいも「かわせみ」の奉公人達もどれほど傷ついていたか…。るいの忍ぶ恋がせつなく胸をうつ表題作ほかを収録。



河岸忘日抄

堀江 敏幸 著

ためらいつづけることの何という贅沢。ひとりの老人の世話で異国のとある河岸に繋留された船に住むことになった「彼」。ゆるやかに流れる時間の中で日を忘れるために…。

